

1 年間で学んだこと

1. はじめに

情報と社会の授業では、いくつかの講演を受けた。その中で特に印象に残っている内容を3つ挙げ、レポートを作成する。また、1年間講演を受けて考えた、自分の学生生活の計画について述べる。

2. 印象に残っている内容

2-1 レジリエンスを育てる

ここでは、第3回の「レジリエンス」の講演について述べる。「レジリエンス」とは、逆境に負けない力のことであり、感情が落ち込んでも立ち直る、その過程のことを指す。私がこの講演の中で特に印象に残っているのは、「ネガティブ感情はなくてはならない」ということである。講演以前、立ち直りにネガティブ要素は必要ないと考えていた。しかし、人は失敗をして落ち込み、ネガティブになることで逆境に立ち向かい、立ち直る。つまり、ネガティブ感情がなければ人は立ち直ることができないのである。ネガティブ感情が強すぎると泥沼にハマってしまうが、適度なネガティブ感情にはプラスの面があることを学んだ。

この講演を受けて、私はレジリエンスの高い人になりたいと考えた。生きていく上で逆境は必ず存在し、それに打ち勝っていく必要がある。落ち込むのは悪いことではないが、いつまでも落ち込んでいるのはよくない。私は、逆境に立ち向かうことのできる強い人になりたいと考える。万が一、ネガティブな泥沼にハマってしまった場合には、小林さんが紹介してくださった3つの脱出方法を参考に脱出しようと思う。講演の中で「今は、人生のリハーサルではない!」という言葉が出てきたが、この言葉を念頭に置き、できない理由よりもできる理由を考えるようにしていきたい。

2-2 可能性を広げるスマートデバイス

第6回の講演テーマは「使用許可とスマートキーとスマートシティ」であった。この講演の内容にとっても興味を持ち、数多くの講演の中でも印象に強く残っている。スマートデバイスとは、インターネットがハードウェアと融合したもので、家電がインターネットと繋がることによって便利になる。スマートキーはその中のひとつで、物理キーがインターネットと繋がり、ソフトウェアキーとなったものである。これにより、物理的な鍵を持ち歩くことなく、アプリなどで鍵を開けることが可能となる。そのため、物理的なキーでは不可能であった、「制限されたキー」を生み出すことができ、時間的、機能的な使用許可を与えられる。私はこれらの話を聞き、スマートキーはこれから主流になってくると考えた。「必要なとき」に「必要なもの」を「使える」ようにする、このスタイルを人間は求めていると思う。

そんなスマートキーにもデメリットは存在する。スマホをなくした場合の対処法、ハックされたらどうするのか、ロックの電池問題など、これらに関しては未知の不安である。しか

し、これらの課題をクリアすることができたら、世の中の可能性はさらに広がる。何もかもをインターネットと繋げれば良いということではないが、インターネットは確実に私たちの生活を便利にしていく。この講演内容についてもっと詳しく知っていききたい。

2-3 対話と討議・討論の違い

対話と討議・討論は違うものであり、角田さんは「対話の場を創る」ことを大切にされていた。対話は答えを求めるものではなく、評価を行わない。現代の私たちには、対話の場をあえて設ける必要があると思っている。SNS が普及している中、人と面と向かって話す機会が減ってきてしまっている。対話を目的として集まることで人と交流をする。私自身、ワールドカフェのような対話の場があれば是非参加したいと思う。

この第 11 回の講演を踏まえた上で、3 年生との対話を行った。対話の雰囲気大切にすることを意識し、有意義な対話を行うことができたと感じている。相手に聞きたいことを聞き、話したいことを話してもらう空間づくりを行った。角田さんの講演を受けたことにより、3 年生との対話は素敵なものとなった。

3. 今後の計画

私は、講演者のような人になりたいと思う。講演者になりたいということではなく、講演者のような考え方をしたい。講演者は自分の大事にしている「考え」があり、講演を通じて私たちに教えてくださった。一人一人大事にしていることは違っていたが、どの考え方も前向きで、未来に希望があるものであった。私は誰かに自分の考えを堂々と話せるようになりたいと考えている。話す力を身につけることもそうだが、自分の大事にしていることに自信を持てるようにしたい。大学生活では、自分が輝ける分野を見つけ、自分の考えを堂々と他人に語れるようにする。

4. まとめ

今回挙げた内容に限らず、講演の中でたくさんの考え方を知ることができた。講演ひとつひとつに学ぶこと、考えさせられることがあった。4 年間を無駄にしないよう、講演を受けた経験を活かし、有意義な学生生活を送っていこうと考える。